

# おりはら政信通信

発行責任者/折原政信 電話番号/023−643−5094 〒990-2474 山形市大字沼木863-2 ■ masanobu.orihara1124@gmail.com ホームページ http://masa-ori.com/

この「おりはら通信」は、政務活動費を使用して作成しております。



# 年頭のごあいさつ!

新しい年を健やかにお迎えのことと心よりお慶びを申し上げます。

昨年も、新型コロナウイルス感染症対策とワクチン接種等に振り回された1年となりました。引き続き警戒心を弱めることなく、3回目のワクチン接種とマスクの着用や手指消毒、多人数での飲食等について注意を怠らないように生活をして行きたいものです。

そんな中ではありましたが、1年遅れで東京2020オリンピック・パラリンピックが開催されました。そしてオリンピックでは、金27個・銀14個・銅17個の合計58個を獲得、パラリンピックでは、金13個、銀15個、銅23個の合計51個を獲得し、日本中に勇気と感動を与えて頂きました。アスリートの皆さんは勿論のこと大会関係者やボランティアの皆様に心から感謝の意を表しますとともにオリンピック・パラリンピックの大成功をみんなで心から喜び合いたいと思います。

昨年は選挙の年でもありました。1月の山形県知事選挙に始まり7月の東京都議会議員選挙、10月の衆議院選挙と 党員・支持者の皆様方からの熱いご支援を賜り、コロナ禍の中での大変厳しい選挙戦ではありましたが、東京都議 会議員選挙では23名全員が当選、衆議院選挙でも小選挙区9名の全員当選と比例区では23名が当選し、32議席を 獲得させて頂き、改選前より3議席増を果たさせて頂きました。大変にありがとうございました。小さな声を聴く力とネットワーク政党として市政・県政・国政との連携を図りながら、日本再生へ新たな挑戦を開始させて頂きます。

コロナ禍が収束していく中で、アフターコロナの取り組みが大事になってきます。地域経済活性化を促すクーポン券の発行や山形観光の魅力の再構築と開発、格差是正や災害対策など、私たちが成すべきことは多いと思います。

強靭で持続発展可能な地域社会を創るため、新型コロナウイルス感染症の諸課題に真摯に取り組むとともに、市民の皆様に寄添い、私の政治信条であります、現場第一主義に徹し、『誠実に!』『真剣に!』『情熱を持って!』お一人お一人の声を市政に届け、皆様の声をカタチにしてまいります。

結びに、今年一年が皆様方にとって実り多い年となるとともに、健康で健やかな年でありますよう心よりお祈り申し上げ、私の年頭に当たっての挨拶とさせていただきます。

令和4年元旦 山形市議会議員 折原政信



### 令和4年度予算編成にかかる政策提言!

12月23日(木)午前9時30分から、令和4年度予算編成にかかる政策提言を佐藤孝弘山形市長に公明党山形市議団としてお渡しさせて頂きました。

政策提言は、特別枠として新型コロナウイルス感染症の対応と新生活様式についての12件と、1.世界に誇る「健康医療先進都市」実現のために11件、2. 県都相応しいトップクラスの子育て環境整備のために12件、3. 活力ある産業のまちづくりのために9件、4. 市民協働のまちづくりのために7件、5. 安全・安心のまち

づくり推進のため に8件の大きな5 項目から成り、新規 23件、継続拡充 10件、継続14件 とコロナ禍の分を 含めて合計59件 です。



提言書を佐藤市長に手渡す

### 山形広域環境事務組合議会議長に選出!

6月4日(金)、山形広域環境事務組合議会の令和3年6月組合議会臨時会が開催されました。そこで臨時議長から指名推薦があり、私折原政信が議長の当選人として告知して頂きました。議長と言う大役を仰せつかり身の引き締まる思いで一杯であります。

議会の構成としては、山形市議会議員から私折原政信、今野誠一議員、長谷川幸司議員、遠藤吉久議員、渋江朋博議員、浅野弥史議員、仁藤俊議員の7名、上山市議会議員から棚井裕一副議長、谷江正照議員、川口豊議員の3名、山辺町町議会議員から安達春彦議員、遠藤真由美議員の2名、中山町町議会議員から村山隆議員、佐竹



山形広域環境事務組合議会議長

# 9月定例議会 通算19回目の一般質問!



インターネットで一般質問の様子(動画)をご覧いただけます

生放送配信のほか、過去の録画映像もご利用ください http://www.yamagata-city.stream.jfit.co.jp/



9月定例議会で通算19回目の一般質問を行う折原

### 自治会・町内会等について

#### (1)申請書と報告書について

**質問** 全ての補助金等の申請書は町内会で一枚とし、報告書は簡便化を図るなど補助金の申請書及び報告書等について見直しを図ってはどうか。

答弁 申請書等の記入箇所をできる限り少なくするため、あらかじめ町内会名などを印刷したものをお渡ししているほか、添付書類を必要最 小限にするなど、町内会長の負担軽減を図っております。今後も引き続き、負担軽減策を検討してまいります。

#### (2)アンケート調査及び分析について

**質問** 令和元年6月に、各地区の自治推進委員長に対して「地域づくりに関する課題等調査」を実施したと聞いている。調査の結果、どのような課題が挙げられ、その課題に対してどのような対応を行ったのか。その時の調査は自由記述方式となっていることから、課題をさらに洗い出すため、「役員のなり手不足」といった主なテーマを設定し再度調査を行ってはどうか。

答弁 各地区からは、「町内会役員の高齢化、担い手不足」など、町内会・自治会活動、地域づくりに関することのほか、地域内の住環境に関すること、農業に関すること等市政全般にわたる要望なども寄せられた。調査結果については、令和2年2月に開催された自治推進委員長会議にて情報共有を行った。また、課題とともに寄せられた市に対するご意見、ご要望については、庁内で情報共有し、可能なものから対応を行っている。当時のアンケートでは、市政全般にわたる広範な回答結果となり詳細な分析が困難だったので、今後、自治推進委員長連絡協議会と協議しながら、あらためてテーマを絞り込んだアンケート調査の実施について検討してまいります。

#### (3)支援への体制づくりについて

質問 様々な問題を解決するために、NPOや企業、大学教授等がコーディネートして町内会等が求める人材像とのマッチングが進められる ような体制づくりが必要だと思うがどうか。併せて、南沼原地区におけるNPOのアドバイスを受けた取り組みや、南沼原地域包括支援 センターを中心とした諸活動について、他地区にもしっかりと周知することで他地区での新たな取り組みにつなげてはどうか。

答弁 各地区、町内会や自治会が抱える問題は、地域性や歴史的背景から多様なものがありますが、現在は地域福祉や公共交通など、その解決に専門性が求められるものも多くなってきている。また、地域活動の担い手不足についても、地区のニーズが多様化しており、そうした課題を検討するうえでは、専門的な見識のある外部の方が地域に入り、アドバイス等を行う活動も有効であると考えております。南沼原地区では「子供いきいきふれあい活動推進事業」として、NPOが研修会を行い、地区全体の三世代交流活動を実践し、担い手不足等の自発的な解決を図っているほか、南沼原地域包括支援センターでは、地域内の介護サービス事業所等と協働して生活の身近な相談を受け専門機関を紹介する体制を構築したり、介護予防に向けた地域独自の体操をDVDにまとめ地域住民に活用いただくなどの、先進的な取り組みが行われております。このような取り組みについては、各地区での課題解決に向け参考としていただくため、自治推進委員の全体研修会などにおいて、先進事例紹介や発表の場を設け、広く周知してまいります。

### 2 新しく就任された副市長の決意と抱負について

質問 副市長二人制については、一般質問でいち早く取り上げ推進してきた。市長は7月12日に井上貴至氏に辞令交付を行った。市長は副市 長二人制にあたり、髙倉副市長と井上副市長に対して、どのような視点で市政運営を担って貰うつもりなのか、具体的なミッション内容 があればどう指示されたのか。

答弁 山形市発展計画2025に「感染症に強いまちづくり」と「アフターコロナにおける地方創生の推進」という2つの政策に加え、東京一極集中の是正に向けた受け皿となる施策や事業を展開していくこととしています。このことから、井上副市長には、総務省出身ということで、地方行政の課題や地域資源の活用に係る豊富な知見を生かしながら、国の施策との整合性を図りつつ、地方創生の更なる推進、創造都市の推進、スマートシティの推進、行政のデジタル化の推進といった、具体的なミッションをお願いしています。井上副市長には、これらに係る分野を中心に担当してもらいますが、髙倉副市長との役割を分担し、迅速な意思決定のもと、行政需要の増大や増加する重要課題について、的確に対応してもらうよう指示しております。

**質問** 井上副市長は、山形県内の随所に出かけ、「地域づくりは楽しい地域のミツバチ 井上貴至の元気の出るブログ」で情報を発信している。 今後、中央との太いパイプやこれまでの経験を活かしながら、中核市として、県庁所在地として山形市をどのように導いて行こうとして いるのか、井上副市長に抱負と決意を伺いたい。

答弁 総務省入省以来、毎週末私費で全国を旅して、出会った人と事例を繋げて新しい花を咲かせる「地域のミツバチ」活動を続けてまいりました。まさに、「地域づくりは仲間づくり」であり、中と外、官と民を繋げることが大切であると考えております。今後は、山形市の魅力を広く発信し、仲間、関係人口、移住者を増やしていくとともに、経済やエネルギーの域内における循環を促進し、市民の平均所得とお金では測れない豊かさの向上を図ってまいります。少子化や感染症など日本の多くの問題は首都圏一極集中から生まれていると認識しており、県庁所在地・山形市の魅力を高めることが日本の問題の解決にもつながることだと考えております。

### 3 山形市の広報活動について

#### (1)公式ホームページ「なんたっすやまがた」について

**質問** 山形市公式ホームページにコロナ禍における様々な施策が紹介されているが分かりにくいとの声が上がっている。また、全体のキーワード検索に入力しても必要とする項目になかなかヒットしないとの意見もある。これまでも何回かホームページのリニューアルを行っているが、改善またはリニューアルの計画はあるのか。

答弁 現行のシステム上、これ以上のレイアウトの変更は困難となっております。また、検索しにくいことや欲しい情報にたどりつかないことが課題となっております。こうしたことを含め、さらなる改善を目指し、現在、公式ホームページの全面リニューアルに向けた作業を進めており、11月1日に公開する予定です。リニューアルにあたっては、閲覧する誰もが目的の情報に快適にたどり着けることや、情報の検索のしやすさ、災害時など緊急時のホームページの繋がりにくさの解消などに重点を置いて、システムの構築を行い魅力あるホームページづくりに取り組んでまいります。



#### (2)広報やまがたの配布方法について

**質問** 広報やまがたは、毎月1日と15日に各地区の自治推進委員長や広報担当から隣組長を介して配付されるが、正月やお盆など忙しい時期の広報やまがたの配布は隣組長からではなく、業者による戸別配布としてはどうか。

答弁 町内会の皆様から配布が負担であるとの声もいただいていますが、一方で、地域コミュニティ形成のため直接配布することに意義があるとの意見もある。他市においてはポスティング事業者に委託するなど、異なる手法で配布している例もあることは承知しておりますが、議員のご提案も踏まえ、あらためて山形市においてどのような配布方法が適しているか、自治推進委員の皆様から意見を聞きながら検討してまいります。

#### (3)広報やまがたのコンセプトについて

**質問** 広報やまがたがリニューアルしたが、表紙の写真が小さいのはなぜか、もっと大きくしてはどうかなどの市民の声がある。表紙のコンセプトについて、総務部長に伺いたい。

答弁 広報やまがたは昨年10月1日号からリニューアルした。表紙のデザインに関しては、東北芸術工科大学グラフィックデザイン学科の教授に、タイトルロゴの選定を含めアドバイスをいただいた。他市の広報紙を見ると、全面に写真を取り入れているところが多くありますが、山形市はあえて写真を小さくしました。余白を多く作ることで、写真を際立たせ、他市との差別化を図ったものです。また、表紙に目次を入れることで、内容に興味をもっていただき、開いて読んでみようと思っていただけるように工夫したところです。余白を多く設けたデザインについては、写真を大きくしたほうがいいとのご意見をいただく一方、より上質で洗練されたイメージになったとの評価もいただいております。当面はこの表紙のデザインを継続しますが、引き続き市民の皆様からさまざまなご意見をいただきながら、より良い紙面づくりに努めてまいります。

### 4 プッシュ型行政サービスについて

**質問** 日本の行政サービスは住民自ら申請することを前提とした「申請主義」に基づいており、情報を知らないため申請に至らず制度等を利用できないケースがあり弊害が出ている。その弊害解消のため、住民の問い合わせを待たずに必要な行政サービスにつなげる「プッシュ型行政サービス」の導入が進んでいる。山形市に於いては一部導入されているところがあるが、更なる拡充を図ってはどうか。

答弁 プッシュ型行政サービスの取り組みの一つとして、本年6月に「山形市LINE公式アカウント」をリニューアルし、必要な情報が適時に配信されるセグメント配信を導入しました。これにより、子育ての情報や新型コロナウイルスに関する情報、また、移住・就職に関する情報といった市民が個々に必要な市政情報の取得の受信が可能となりました。今後は、千葉市を始めとする先進自治体の取り組み事例を参考としながら、国のマイナポータルの充実に合わせて活用範囲を広げてまいります。また、併せて申請漏れの防止や申請の際の市民の負担軽減に繋がるよう、配信情報の充実や情報発信に係る取り組みの積極的な周知を図り、プッシュ型行政サービスを推進してまいります。



### 5 帯状疱疹ワクチン接種への助成について

**質問** 帯状疱疹は誰もが発症する恐れがある。特に、50歳代から発症率が高くなり、80歳までに約3人に1人が発症するといわれている。 生活にも影響が出るため、予防の大切さをアピールするとともに、帯状疱疹ワクチン接種に対する助成制度を設けてはどうか。

答弁 帯状疱疹ワクチン接種への助成については、すでに実施している自治体での効果等を参考にしながら、予防の重要性や予防接種の有効性など調査検討してまいります。また、感染症にかからないためには、免疫力を高め、感染症に負けない身体をつくることが重要です。健康寿命の延伸に向けた「SUKSK(スクスク)生活」の提唱とともに、免疫力をしっかりつける生活習慣の実践や感染症に係る正しい知識について、周知・啓発してまいります。

#### 6 子宮頸がん予防ワクチンについて

#### (1)積極的接種勧奨再開後の対応について

**質問** 子宮頸がん予防ワクチンについて、国が積極的勧奨を年度途中から再開するとした場合、小学校6年生から高校1年生までの女子と 保護者に対し、国の方針が変わったこと及び積極的に接種を勧める旨の分かりやすい訂正案内を個別通知で速やかに送付すべきと 考えるがどうか。

答弁 子宮頸がん予防ワクチンについて、4月に高校1年相当の女子と保護者の方へ、国が作成したパンフレットを送付し、ワクチンが公費によって接種できることを知っていただくとともに、ワクチンの接種について検討・判断していただくための情報提供を行った。今後、国の動向を注視しながら、積極的勧奨が再開された場合には、対象の方への情報提供及び周知について、適切に対応してまいります。

#### (2)キャッチアップ接種について(誰一人取り残すことのない救済措置を)

**質問** 積極的接種勧奨が行われなかった期間の情報不足により接種機会を逃した女性に対して栃木県日光市等ではキャッチアップ 公費接種の助成を行っている。定期接種期間が過ぎた対象者がキャッチアップ(追いつく、追いかける)できるように、山形市も 独自救済制度として「キャッチアップ接種助成」を実施してはどうか。

**答弁** 議員ご提案の子宮頸がん予防ワクチンのキャッチアップ接種については、引き続き、議論の動向を注視しながら適切に対応してまいります。

#### スポットビジョンスクリーナーの導入について

これまで公明党山形市議団で先進地視察をして3歳時健康診査でのスポットビジョンスクリーナーを使用しての検査実施を推進して 質問 きたがめどは立ったのか。

答弁 山形市の3歳児健康診査における他覚的屈折度検査機の導入については、山形市医師会の眼科医師、小児科医師と協議を行い、検査 の判定基準やマニュアル等の策定を行っているところです。国においても機器導入に向けた動きがあることから、制度を活用するな ど、令和4年度の実施に向けて取り組んでまいります。

#### 8 工内耳体外機の買い替えや電池助成について

質問 人工内耳体外機の買い替えや電池助成を行っている自治体を確認すると、北海道4市、秋田県2市、岩手県2市と東日本では取り組む 市町村は少ないが、西日本になると多くの市町村が取り組んでいる。この行政の取り組みの違いはどこから来るものなのか。SDGsの 「誰一人取り残さない」という精神のもと、市長の英断で山形県における初の試みとして、人工内耳のスピーチプロセッサーに対する 買い替え助成や電池助成を実施してはどうか。

答弁 「電池」については、一般的に普及している消耗品とされ、国が定める日常生活用具の給付対象となっていない。医療保険制度が適用に ならない買い替えの実情や公費負担の必要性については、市民ニーズの把握に努めるとともに、国に対し、人工内耳装着の方への支援 の充実を求めていく。

質問 霞城公園の体育館等は平成5年度までに撤去するとされているが、どのようなスケジュールで進められるのか。また、山形市からの具体 的な提案はどの様なプロセスを経て、いつまでに県に伝えられるのか。

答弁 霞城公園整備計画により令和5年度を目途に撤去の予定となっているが、今なお多くの利用者がいることを踏まえ、これに代わる施設 の山形市中心市街地への整備について、今年度も引き続き、県知事への重要事業要望を行っている。この6月には、県に対して、改めて 新たな施設を整備していただきたいこと、また、その際には現施設の撤去時期の延期を含め、利用者が施設を利用できなくなる空白 期間を生じさせない形での整備の検討・協議について提案し、一定の理解をいただいと捉えている。現在は、山形県の担当部局と霞城 公園整備の進捗状況等を確認しながら、撤去の時期や施設の在り方等について具体的に対応すべき課題を共有し、今後の方向性につ いて丁寧に話を進めている。

### SDGsと脱炭素社会を考える 市民向けワークショップに参加!



12月4日(土)、山形市主催の 『SDGsと脱炭素社会を考える 市民向けワークショップ に参 加させて頂きました。佐藤朋子 講師の指導のもと、A·B·C·D の4グループに分かれて『山形 版SDGsシュミレーションカー ドゲーム』を行いました。

#### 中央駐車場1月4日から全自動化に



山形市役所の中央駐車場はこれ まで有人での料金精算を行ってい ましたが、1月4日から精算システ ムを全自動化に切り替えることに なりました。山形市役所に御用の 際は、全庁に64台の割引認証機器 が配置されていますので、駐車券

自動精算(出庫) の磁気媒体に割引データを書き込んで使用することになります。



### 西公園に3オン3の バスケットボールコートが完成!

昨年9月の一般質問で西公園にあるバスケットボー ルコートをもう一面増設してはどうかと提案させて頂 きました。

9月から増設工事が始まり、12月上旬に完成しました。 新しく増設されたコートには、新ルールに則ったライ ンが引かれていました



昨年9月の一般質 問で、須川流域の浸 水被害と山形河川国 道事務所からの支援 体制の現状を訴え、 配置時間や排出量を 考慮して排水機場の設置と、排水機場が 完成するまでは、山 形市として排水ポン

ブ車の増台を図って対応してはどうかと訴えていました。 6月28日の環境建設委員会で排水ポンプ車の購入に ついて担当課長から説明がありました。排水ポンプ車は、 8 t 車、中型免許で運転可能です。排水ポンプを6台搭載 、25mプールの水を15分でくみ上げる能力を持ちます。



ポンブ 重庫は嶋 の市有地 に建設さ れます。 9月補正 で建設費 2100万

円が計上されました。想定ではこのポンフ 車庫から5km圏内の場所において排水作 業を行うこととし、この車の運転等につい ては外部委託とする旨の話がありました。

くらしの 110番

### おりはらをどんどん 働かせて下さい!

TEL&FAX 023-643-5094

お気軽にご相談ください「折原政信





@OriharaMasanobu

#### **Facebook**

http://masa-ori.com/



りはらブログは毎日